

(13) WG 22：トンネルにおける情報モデル

部 会 長：Dr.Florent Robert（フランス）

副部会長：Alessandro Menozzi（イタリア）

担当理事：Hamdi Aydin（トルコ）

本 WG は、2025 年までにトンネル分野における BIM 導入の国際ガイドラインの提供、および BIM を活用したトンネルの持続可能なライフサイクル管理手法への提言を取りまとめてきた。これらの成果は ITA-AITES の出版物として電子書籍で公開されている。本年からはワーキング名称を「Digitalization & Automation」へ変更し、デジタル化・自動化技術の普及と実装促進を中心に活動を進めている。日本からは、谷（大成建設(株)）と江口（(株)演算工房）が参加した。

今回は、BIM ガイドライン改訂版（Rev.02）の検討状況が報告され、施工段階・4D モデリング、As-Built モデル、Federation Strategy、Design Automation、AI 統合 BIM など新しい章の追加の進捗を確認した。また、ISO19650:2026 の改訂に伴い、「BIM」から「Information Management」への用語変更など、国際標準との整合も図られている。AI 分野では、地下空間分野における機械学習の責任ある導入に関するガイドライン策定が進められており、設計、施工管理、モニタリング、維持管理など幅広い適用事例を対象として検討が行われている。特に、用語の定義や AI 適用時の責任の所在（利用者、データ管理、倫理、説明責任、等）について活発な議論が行われ、詳細は約 2 か月に 1 回開催される定例会議で継続的に検討していくこととなった。併せて、Digital Twin / Digital Engineering 分野では、設計最適化、施工監視、アセットマネジメントなどのユースケース収集を進め、今後の国際ガイドライン整備へ反映していく方針が示された。

（文責：谷卓也・大成建設(株)）

WG 22 の活動状況はこちらから

[Working Group 22: Digitalisation & Automation](#)